

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2006～2009

課題番号：18203012

研究課題名(和文) 世界における都市空間の経済システム：理論と実証

研究課題名(英文) Urban economic system in the world: theory and practice

研究代表者

田淵 隆俊(TABUCHI TAKATOSHI)

東京大学・大学院経済学研究科・教授

研究者番号：70133014

研究分野：都市経済

科研費の分科・細目：3601 理論経済学

キーワード：空間経済学、都市経済学

1. 研究計画の概要

本研究では、都市経済学、地域経済学および国際経済学を、空間経済学として束ね、世界の都市システムを解明し、さまざまな経済諸問題を解決することを主な目的とする。具体的には、Krugmanに始まる空間経済学の理論の再構築、Alonsoに始まる都市経済理論の実証分析をもとにした都市環境問題の解決、世界の都市経済システムの再編に伴うさまざまな社会階層間の格差の研究、および国際貿易構造と生産要素の国際間移動の解明が、本研究のねらいである。

研究は以下の三つの課題に大別される。

(1) 空間経済学の基礎理論の再構築

経済活動の集積、多様な産業間の連関、知識創造と動学的外部性、複数均衡と安定性の諸問題、社会厚生分析。

(2) 都市空間構造と都市階層システム

大都市における混雑などの外部不経済と企業集積による外部経済の理論と実証分析。

(3) 技術進歩と国際経済

情報通信や交通施設などの社会共通資本の蓄積が都市経済にもたらす効果の理論と実証分析。

2. 研究の進捗状況(600-800字)

(1) 空間経済学の基礎理論の再構築

クルーグマンが開発した空間経済学において、いかなる状況のもとに自国市場効果が表れるか、生産要素や居住としての土地の果たす役割について、多角的に分析を行った。藤田は、異質な人間が交換する知識によって新

たな知識・イノベーションが創造されることの空間経済学へのミクロ経済学的基礎を確立した。関税などの交易費用が大国と小国で非対称であることに着目し、空間経済学の新たな理論を展開した。また、国際貿易のデータを収集し、理論の検証を行っているところである。

(2) 都市空間構造と都市階層システム

世界の大都市が直面している都市問題に関して、効率性や公平性の観点から分析した。都市集積がもたらす負の外部性として、長距離通勤、交通混雑、環境汚染などに着目すると同時に、都市集積がもたらす正の外部性として、財・サービスの多様性や企業間取引費用の節約などに焦点を当て、大都市圏のデータ収集と実証分析を行った。さらに、都市内部の空間構造を分析し、中心市街地と郊外のサブセンターの関係を調べている。

(3) 技術進歩と国際経済

交通や通信などの技術進歩が、経済活動の空間分布にどのような影響を与えるかについて、理論面を中心に分析を行った。輸送技術に規模の経済があるときには、産業活動の分布はどのように変化するか、地域間・国際間の所得格差は拡大するかといった問題を、経済発展論と交通経済学に焦点を当て分析を進めている。

以上得られた結果は、内外の学会や研究会で報告し、活発な議論を行っている。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

(理由)

空間経済学の基礎理論と都市空間のシステムについては、ある程度の研究成果をあげることができ、学会等で報告を行い、いくつかの国際誌に掲載された。

ただ、技術進歩と国際経済については、予想どおりの分析結果が出ていないの現状である。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 空間経済学の基礎理論の再構築について書いたdiscussion paperを改訂中である。

(2) 都市空間構造と都市階層システムについて書いたdiscussion paperを改訂中である。また、さらに詳しい実証分析を行う。

(3) 技術進歩と国際経済については、さらに詳しい実証分析を行う。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

Tabuchi, T. and J.-F. Thisse “Regional Specialization, Urban Hierarchy, and Commuting Costs,” *International Economic Review* 47, 1295-1317, 2006, 査読有.

Takahashi, T. “Economic Geography and Endogenous Determination of Transportation Technology,” *Journal of Urban Economics* 60, 498-518, 2006, 査読有.

Mai, C.-C. S.-K. Peng and T. Tabuchi “Economic Geography with Tariff Competition,” *Regional Science and Urban Economics* 38, 478-486, 2008, 査読有.

Fujita M. “Towards the New Economic Geography in the Brain Power Society,” *Regional Science and Urban Economics* 37, 482-490, 2007, 査読有.

Ihori, T. and M. McGuire “Collective Risk Control And Group Security: The Unexpected Consequences of Differential Risk Aversion,” *Journal of Public Economic Theory* 9, 231-263, 2007, 査読有.

[学会発表](計5件)

Tabuchi, T. “Trade and Entrepreneurship with Heterogeneous Workers,” Taipei Conference on Regional and Urban Economics, 国立台北大学, 2007年12月.

Kanemoto, Y. “Consumption Side Agglomeration Economies in Japanese Cities,” Taipei Conference on Regional and Urban Economics, 国立台北大学, 2007年12月.

Tabuchi, T. “Estimating Interregional Utility Differentials,” North American Regional Science Conference, Savanna, 2007年11月.

Takahashi, T. “Asymmetric Transport Costs and Economic Geography,” The First China-Japan Joint Seminar on Applied Regional Science Workshop, Beijing University, 2007年10月.

Takahashi, T. “Income Distribution and the Land Market for Residential Use: Quantity Premium Revisited,” 応用地域学会研究発表大会, 釧路公立大学, 2008年11月.

[図書](計2件)

Fujita, M. (ed) “Regional Integration in East Asia: From the Viewpoint of Spatial Economics,” Palgrave Macmillan, 192ページ, 2007.

森地茂・金本良嗣編著, 「道路投資の便益評価 - 理論と実践」東洋経済新報社, 372ページ, 2008.

[産業財産権]
出願状況(計 件)

取得状況(計 件)

[その他]